



2009年3月1日

通巻1100号

発行：金沢大学教職員組合執行委員会
〒920-1192 金沢市角間町
TEL076-262-6009 角間内線2105
E-MAL kanazawa@ku-union.org



金沢大学版 地球の歩き方

<プラハ スメタナの「我が祖国」 の舞台を巡る>

平野 晃宏 (理工学域)

チェコ、そしてプラハといえば何を思い浮かべるだろうか。クラシック音楽の愛好家にとっては、なんといってもドヴォルザークとスメタナであろう。スメタナといえば6曲からなる連作交響詩「我が祖国」、特に2曲目の「ヴルタヴァ」が有名である。「モルダウ」の原曲だと言えば、中学か高校で歌ったという人も多かろうと思う。今回はその「ヴルタヴァ」と、1曲目の「ヴィシェフラド」(「高い城」)を巡ってみたい。



ヴィシェフラドからヴルタヴァ川越に



ドヴォルザーク像

プラハ行きが決まった時、思い浮かんだのが「ヴルタヴァ」と「ヴィシェフラド」であった。ヴルタヴァ川はプラハの中央を流れるので、見るだけなら簡単だろう。問題は「ヴィシェフラド」である。プラハの郊外らしい…という程度の知識しかない。

プラハの市街地図を見ると、隅の方にそれらしき地名がある。時間はかなり限られているので、辿り着けるだろうか？直前まで入試などに追われており、この程度の情報で現地入りすることとなった。この調査不足は、後で幸いと不幸の両面をもたらした。

さて、現地で地下鉄と路面電車の経路が書き込まれた地図を入手できた。地下鉄はA、B、Cの3路線。路面電車は縦横無尽に走っている。地下鉄と路面電車を一日乗り放題という切符も安く手に入る。公共交通はかなり便利そうである。地下鉄C路線にはしばしば「ヴィシェフラド」駅があるが、実はそこから徒歩でそこそこの距離がある。路面電車の17または18の方が近いかもしれない。

幸い、午後に数時間の空き時間ができた。ドヴォルザーク像を拝み、お約束のカレル橋とプラハ城眺め、18番線に飛び乗った。電車通りから鉄道の線路下をくぐるところがわからずに道を尋ねたが、あとは案内標識に導かれて無事に辿り着くことができた。煉瓦の高い城壁があり、門をくぐって内部へ。大聖堂と墓地がある。



ヴィシェフラドの大聖堂

墓地からヴルタヴァ川の方へ抜けると、ヴルタヴァ川越しに、遠くにプラハ城を望むことができる。ここで突然、鐘による音楽が流れてきた。「ヴルタヴァ」である！これは嬉しい驚きであった。正午を除く毎正時に流れるということを後で知ったのであるが、先に知っていたら時計を睨みながらソワソワしていたであろう。

ヴルタヴァ川沿いに降りて上流を眺めると、岩山の上に古い遺跡が見える。現在では岩山をトンネルが貫き、そこを自動車と路面電車が通っている。この遺跡と「高い城」の関係は定かではないが、交響詩「ヴルタヴァ」の終曲で「ヴィシェフラド」を回想するところを思い浮かべたのは言うまでもない。ここで時間切れとなり、慌てて次の予定の場所に向かうことになった。帰りは18番線で、ヴルタヴァ川沿いを下った。



城壁

「ビール」の故郷でもある。ビールといえばドイツだろうって？ 実は、「とりあえずビール！」と言えば出てくる飲み物は、チェコのピルゼンを発祥とする「ピルスナー」という種類のビールである。ここでもピルスナーの元祖、「Pilsner Urquell」を飲むことができた。

「桂」のカウンターで、隣り合わせたチェコの会社に勤めている日本人グループと歓談した。ヴィシェフラドに行ってきたと言うと、あそこに行く日本人は少ないとのこと。「我が祖国」の舞台だから…と答えると、「じゃあ、スマタナとドヴォルザークとクーベリック父子（チェコ出身の大指揮者）のお墓も見てきたんですね？」ときた。ここで調査不足が露呈してしまう。後の祭りというやつであるが、しかたがない。わかっていても探す時間はなかったと思って諦めて、次の楽しみに取っておくとしよう。



墓地



ヴルタヴァ川、カレル橋、プラハ城

私の健康法

木原 國昭(理工学域)



私は子供の頃から健康には自信が無かったが、なんとか無事定年を迎えるべく安堵しています。しかしやはり肉体の諸機関は各所で不調を来たし始めている事を実感せざるを得ない最近の日々です。私は人間ドックを毎年受けて来ましたが、いつも尿酸値が高く、腎臓の働きを表す何とかいう値(クレアチニン?)が標準上限値をわずかに超える程度に高く、血圧に気をつけろと言われ続けてきました。5年10年後には「透析」だって有り得るぞと脅かされてもいます。血圧はあまり高くないと思っていましたが、最近は基準値がどんどん下げられて、140-90 (mmHg) で立派な高血圧という事らしいのです。140位の血圧をわずかに下げるのに薬はいらないはずで、食事や生活様式などに気を使う事により改善できると思います。いくつか気をつけるべきポイントが有ると思っていますが、問題はそれらが全てかなり難しいという事です。旨いものはそれなりに塩が利いていて、油も乗っていたり、使われたりしていますから、多くの人を悩ましているように、私にとっても難題です。幸か不幸か我々の給料は毎日旨いものを存分に食べる事を許してくれませんから、これはまあ何とかなります。せいぜいつつましい生活で「減塩」に気をつける事です。しかし食事や生活の嗜好を全て封印するのは生活から潤いを無くします。20年ほど前には学生の頃から続けていた喫煙を北アルプス登山を機にやめました。

私には禁煙はそれ程苦では無かったように思います。一方、私は酒が好きで、定年が近くなってきた60歳ごろからは食事で毎日ビールや日本酒を飲んでいます。本当に旨いと思う時があり、その時には、酒を飲まない人など何が楽しくて生きているのだろうかなどと思ったりすることもあります。私は某大臣と違って自制出来ますから、ほどほどで止められます。気分は良くなり、いわゆる“open up”になるけれども、決してへろへろになるような事はありません。今のところこれが私の健康法その1ではないかと思っているくらいです。但し「何とかニン」の事は頭の隅に住み着いていて、全く開放されているわけではないというところでしょうか。

私はテニス爱好者です。決して上手くはありませんが、上手な人たちに恵まれて、週末や昼休みに楽しんでいました。最近自分のテニスの様式を変えたのですが、内心手応えを感じています。退職後は生まれ育った土地の近くの町に住むことにしていますが、そこでテニス爱好者の友人を新たに見つけなければなりません。理学部テニス爱好者の会「黒門クラブ」は正に私の健康法その1に劣らないものでした。週末テニスが出来ないような天候の時は、合間を縫って、近くの用水路沿いにウォーキングに出る事にしています。往復で4kmの歩行です。その時には、金沢は実に恵まれた町であると実感します。昔の人たちがこつこつと掘ったであろう用水路は、正に金沢の潤いの源泉という風情がある。ここを歩ける幸せは私の健康法でなくて何であろう。

今でも勿論研究について考える。実際に幾つかの未投稿の原稿を抱えて、暫くは「外部資金」だとか、「社会貢献」だとかという事を一切考えず、昔の貴族のように純粋に研究に没頭できる気がして樂しみである。しかし年金で、本当に暮らして行けるのだろうか?また、肉体と脳の衰えは着実に進行しているわけで、退職により、「うぞうむぞう」が開放されて、それが一気に加速されやしないか、あるいは持ちこたえて、今考えている事を完遂できるのか、不安ではある。これからは健康法、生き方をどうするべきか自問しながら、未知の領域へ踏み入るという感覚も味わっている昨今です。皆さん、お元気でお過ごし下さい。



Screen Review

スクリーンレビュー

鶴彬 こころの軌跡

監督： 神山征二郎（生誕100年記念し、映画作成）

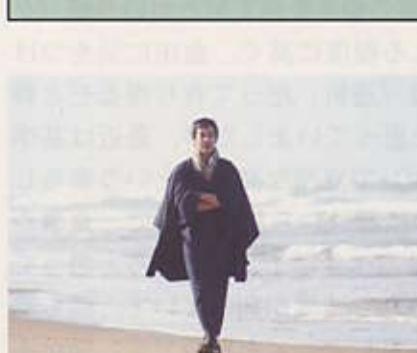
出演： 池上リョヲマ、櫻山文枝、高橋長英、安藤一夫、角谷英次

上映会 金沢初公開 3月30日（月）石川県教育会館（90分）

協力券持参の方のみ入場可 ①10:30~ ②14:00~ ③18:30~

4月以降 県下各地で自主上映会を開催 乞うご期待！

協力券は組合に有ります。



深井 一郎（名誉教授 教育学部 H2年）

脚本の頭初に記された神山監督の言葉を記す。

『少年 喜多一二（かつじ）は生後間もなく伯父夫妻の養子となる。8才で実父と死別、再婚した母とも遠く離れて暮らすことになった。

＜可憐なる母は私を生みました＞ やはり孤独感は人一倍であったろうと想像できる。少年は詩を愛し石川啄木に憧れた。目と鼻の先に日本海があり、海を見ては詩を書いた。

＜暴風と海との恋を見ましたか＞ 早熟な少年詩人に成長していった。

文学に夢中になった。しかし少年の生きていたのは暗く重い戦争の時代だった。同時代を生きた文芸者の多くが傾倒していったプロレタリア文学に、彼もまた目覚めていった。（中略）誰よりも鮮明に時代の行末が見えてしまった愛すべき詩人の名は“鶴彬”。その心の軌跡を追いかけてみようと思う。（中略）ドキュメンタリードラマの手法を取るから、時間を空間をたやすく飛び超え、簡略化した映像が、かえって真実に迫る、という手法に挑戦してみたい。』



高松の海岸、夕暮れである。浜辺の砂に、少年一二と8才年下の妹文子が並んで寝転がっている。啄木の詩集「一握の砂」を読んでいる。〈東海の小島の磯の白浜に吾泣きぬれて蟹とたわむる〉

「石川啄木という人の歌だ。文子、お前は可哀想だな、父ちゃんの顔を知らないんだから。やさしい父ちゃんだったぞ、でもな兄ちゃんが文子の父ちゃんになってやる。」「うん。アッ、カニ。」2人の足元に蟹が2匹。2人は蟹に戯れる。日が沈んでゆく。

岡田澄水の家。一二が訪ねて来ている。借りた「一握の砂」を差出し、「啄木は言葉の泉ですね。その言葉の旋律が全部僕の心に入ってくるんです。」澄水「俳句も結構だが、川柳をやってみないか。諧謔風刺を効かせる五・七・五。

風刺で世の中に向かい合える文芸ってところかな。面白いよ」

この3句は、初めて活字になった川柳



である。以後、一二は堰を切ったように作句し、年末迄の僅か二ヶ月の間に112句が、同紙に掲載された。

金沢の兼六園、曲水にかかる太鼓橋の上で、一二は福村無一路に逢う。福村から全国的な川柳の革新作家（金沢・森田森の家、広島・古屋夢村、小樽・田中五呂八、大阪・木村半文銭、川上日車、東京の井上劍花坊等）の様子を聞く。影像・水原・新生・小康・川柳人等新興派の柳誌を受取り「宝の山だ！」と喜ぶ一二に、福村は「喜多君は宝を無にしない人でしょう。」と風呂敷包みを手渡して別れる。

伯父の工場が倒産。一二は大阪の従弟の市部の下に出向く。「僕はある汚い工場に入った。初めて味わった都会の生活の嵐に吹き廻され、工場の生活が骨身にしみこませる資本主義の矛盾に痛めつけられ、もはや此の世に超現実的なものは何ほども実在しないことを痛感した。頭脳で考えるよりも胃袋で直感した。…頭が

フィルムのように光る。本が読めぬ。…僕はふるさとに逃げて帰った。

一二は上京し、滝井家を訪れ、妹政子に逢う。森田森の家に併わされて、井上劍花坊宅を訪う。信子・鶴子に引き合わされる。

昭和3年2月、高松へ帰る。「高松プロレタリア研究会」を発足させる。背中に「NAP」と染め抜いた法被を着た喜多・沖野・由井・金谷らは昂然と胸を張って行く。町内の掲示板や松並木の幹に、次の如き川柳を書いたビラを貼って廻った。

- 地主から勝手に定めて課す年貢
- 干鰯の如く民衆目を抜かれ
- 重税に追われ漁村に魚尽きる

- プロレタリア生む陣痛に気が狂い
- 退けば飢ゆるばかりなり前へ出る
- 軍神の像の真下の失業者

同年4月30日午前7時、県の特高課の指令で4名が検束され、家宅捜査を受けた。(一般には三・一五事件。全国で1600名検挙。)
一二、東京へ出る。井上家に入る。劍花坊「窮鳥懐に入る」だなと言い家に居るを許す。この後、柳名を「鶴彬」(つるあきら)とした。

昭和5年1月10日、鶴彬は9師団7連隊9中隊に歩兵



二等卒として入隊。隊内で「殴らない」運動を起したり、9中隊では年間4回も中隊長の交替が起ったりした。又連隊長が全体集合の上訓辞を与えていた場で突如挙手し「質問がある」と声をあげ、軍隊内での「上官の命は絶対である」について問うたりした。世に言う「7連隊赤化事件」が起きた。隊内の私物収納棚から「無産青年」(日本無産青年同盟社誌)が発見され、直ちに営倉に拘禁され、その後、軍法会議が開かれ、判決は懲役二年とされ、大阪衛戍監獄に送られた。

昭和9年9月11日、井上劍花坊が寄宿先の鎌倉建長寺で倒れ、65才で亡くなった。翌日の次は「川柳人」(266号)に鶴彬は、「若き精神を讃へる唄—井上劍花坊をとむらう—」と題した長文の詩を読み捧げている。

井上信子個人誌「蒼空」創刊(昭和10年12月15日)

- 鶴彬は次のような句を発表
- 玉の井の模範女工のなれの果て
 - 暁をいたいて闇にいる薔
 - 枯れ芝よ! 団結をして春を待つ

「川柳人」281号(昭和13年11月15日)

- に掲載された鶴彬最後の川柳
- 高梁の実りへ戦車と靴の鉄
 - 屍のいないニュース映画で勇ましい
 - 出征の門標があつてがらんどうの小店
 - 万歳とあげて行った手を大陸へおいて来た
 - 手と足をもいた丸太にしてかえし
 - 胎内の動き知るころ骨がつき

昭和12年12月3日、鶴彬は木材通信社に出勤の途上、治安維持法違反の容疑で待受けた特高により検挙され、中野・野方署に留置される。信子も検挙されたが、高齢を理由に不拘束扱いになった。

昭和13年8月25日付、渡辺尺蠖宛 鶴彬自筆の端書。

「啓、赤痢をえて表記へ入院しています。昨年春12月3日以来、ようやく得た開放です。それで大変申しかねるのですが、病院代を支払かねるのですが、至急15円ほどお貸し願えれば幸いです。丈夫になれば、きっと働いてお返しします。勿々」

昭和13年8月28日付、渡辺尺蠖宛鶴彬自筆端書。現存する鶴彬の絶筆。



「昨夜、ご速達くださいましたお金を受けとりました。感謝にたえません。発病以来、重湯とりんごの汁で細々と命をつなぐのみです。いずれお礼は全快の上で親しくご拝眉の上で。勿々」

とこの端書きは特に鶴彬の筆圧が次第に弱まってゆく、過程の思いに絶筆というふさわしい様相です。トクとご覧下さい。

豊多摩病院の病室。鶴彬は手錠のままベッドに横たわる。信子が訪れ枕元へ。

昭和13年9月14日、喜多一二・鶴彬 死去。享年29才。

あああめの♪

ちょっといいは店

のさか

宮崎 悅子

(人間社会学域)

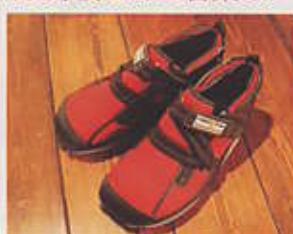


「プロフェッショナルシューフィッティング」のさか

みなさんはどんな目的でどのように靴を選びますか？私は、1万円未満の靴を、それがくたびれてきた時に、近場の靴屋さんで「てきと～」を選んでいました。が、8年前に、野菜を買ったついでにふと立ち寄った「のさか」で、試し履きを勧められた靴を履いたとき、自分の足にぴったり合うのに本当に驚きました。それは黒い革の紐靴でオランダ製でした。35000円という値段に迷いましたが、社長の野坂さんが「長く履くとふうあいがよくなりりますよ」とおっしゃるので、「この靴は長持ちするのか」と知り、後日思い切って購入しました。それ以来ずっと愛用していますが、型崩れがほとんどなく、あと10年以上は確実に使えそうなので、すごくお得な買い物となりました。

「のさか」のお店では、初めてのお客さんは「フットプリント」という計測器にのって足との記録を取ります。店員さんは、そのデータから「この特徴の足にはどの木型の靴が一番ぴったりか」を判断しつつ、お客様がどんな目的で靴を選びたいのかを聞きながら、お勧めの靴を出すそうです。数多くの木型のデータを知る野坂さんや店員さんは、まさにプロフェッショナル！「既製品の中でその人と相性が良い靴を選ぶには、足の特徴を知らなければならないので、フットプリントは靴屋にないほうがおかしいと思います」、「売ることを重視して靴が適当に売られているから、適当に買われているのです」等とおだやかに話す野坂さんの言葉は、私にとって目から鱗で、私の「靴観」が変わりました。

私のように靴を適当に買っていた方はもちろん、足や靴で悩みがある方は、ぜひ男女問わず「のさか」をのぞいてみてください。「使った人が喜ぶ靴を作りたい、売りたい」というプロの方々が、やさしい笑顔で迎えてくださいます！



住 所：金沢市三口新町4-3-1（ニュー三久のとなり） エムザにも支店があります。

営業時間：AM10:00～PM7:00（火曜定休） TEL: 076-231-0110

ホームページ：<http://www.nosaka92.co.jp/>

○○○編集後記○○○

「今回の「ゆにゆに」は通算1100号というキリの良い数字だったのですが、編集部では誰もそれには気づきませんでした。突然の中期計画案の発表によって執行部も大揺れに揺れていたためです。国立大学法人化以降ずいぶんと大学が変化しましたが、あの中期計画はその変化をあらためて印象づけたように思います。たまには新しい革靴を履いて街に出かけ、映画を鑑賞した後は、プラハの風景に思いを馳せながらドイツビールを飲みたいですね。もちろん健康にはくれぐれも留意して、ほどほどに。」

(編集者Y)